特発性間質性肺炎・過敏性肺炎　（呼吸器内科）

臨床研究の名称	特発性間質性肺炎、過敏性肺炎の多施設共同後ろ向き研究
研究責任者の所属・氏名	呼吸器内科　助教　大熊　尭
研究の概要	【目的】 特発性間質性肺炎の中でも特発性肺線維症（IPF）は、最も頻度の高い間質性肺炎で、生存期間は一般に 3～7 年とされますが、国や地域、診断時の状態、治療の違いによってその長さにはばらつきがあります。一方、過敏性肺炎（HP）は 2020 年に初めて国際的な診断基準が示され、共通の基準で診断できるようになりましたが、この基準だけでは IPF など他の病気と区別が難しい場合があります。さらに、HP の診断や経過も地域や施設によって違いが出る可能性があります。本研究では、多くの病院が協力してデータを集め、IPF と比較しながら、HP の特徴や予後、病気の進み方をより正確に明らかにすることを目的としています。 【対象患者】 2000 年 1 月から 2025 年 12 月までに特発性間質性肺炎ないし過敏性肺炎と診断された患者さん 【方法】 上記の方を対象に下記情報を収集し調査します。下記情報のデータ及び画像 CD-R は、共同研究機関と共有することがありますが、その場合は特定の個人を識別できない状態で共有します。 【使用する試料・情報】 年齢、性別、臨床所見、原因抗原曝露歴、各種検査結果〔気管支肺胞洗浄液、血液検査（間質性肺炎マーカー含む）、曝露に関する検査（特異抗体検査、環境隔離検査、誘発試験など）、呼吸機能検査、病理組織検査、6 分間歩行試験、心臓超音波検査〕、胸部レントゲン画像、胸部 HRCT 画像、診断・生存状況・緊急入院や急性増悪に関する情報、治療情報など 【情報使用の開始予定日】 2026 年 9 月 24 日 【研究代表者および所属機関】 奥田　良　神奈川県立循環器呼吸器病センター 【共同研究機関】 日本医科大学付属病院 東京都立多摩南部地域病院 札幌医科大学附属病院 東京医科大学病院

問い合わせ先	呼吸器内科　助教　大熊　尭 〒160-0023　東京都新宿区西新宿 6-7-1 東京医科大学病院 電話番号　03-3342-6111　（代表）

2026 年 7 月作成

※ 研究に情報を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益を生じることはありません。上記の問い合わせ先までご連絡いただけましたら、その方の情報は本研究に利用しないようにいたします。

※ 問い合わせ先の担当者が不在の場合は、臨床研究室にお問い合わせください。